

(笠原)
高橋れい子 作品展 — 木彫から光と音へ

「顔 心 魂」 36年の旅

2013年7月13日(土)～8月4日(日)

土日祝日のみ開催 11:00～18:00



古民家ギャラリー かぐや

<http://g-kaguya.com>

お問合せ: 090-4830-4026 (井上)

090-6952-4752 (高橋)

zac00405@nifty.com



〒355-0803 埼玉県比企郡滑川町福田1560

東武東上線 森林公園駅(北口)、「立正大学行き」バス乗車、
3つ目の「観音前」下車 徒歩6分
※「立正大学行き」バスは、1時間に3本あります。
関越自動車道 東松山インターより車で約10分



常闇の国に咲く白い花 又は
双つ身の月/木 くるみ (1985) H180cm



だがなぜあの女は鷹の声で叫ぶのか
/木 ウォールナット (1986) H35cm

写真・南達夫

手回しオルゴールと
歌 コンサート

「ひとしずくの夢」

7月21日(日) 午後5:30より

菅井千春: 歌

松本孝夫: オルゴール演奏及び製作

美沙子: 操り人形

演目

☆ オリジナル歌曲

作/高橋れい子、松永友和、本尾亮

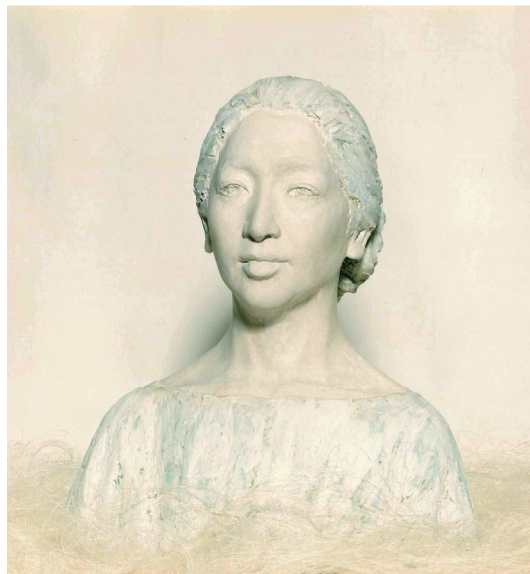
☆ 月の沙漠、アヴェ・マリア等...

入場は無料です。

演奏終了後にお志をお願い致します。

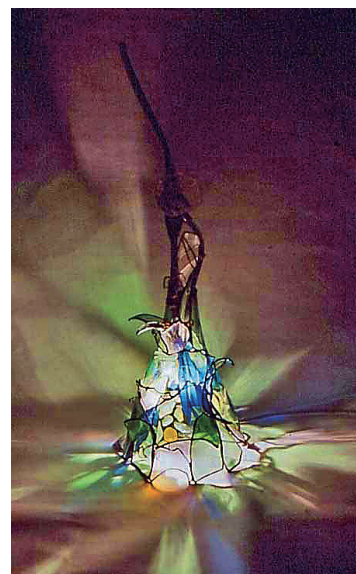


白い月/テラコッタ (1986)
H18cm



「月の鏡」/石膏に胡粉 (1992)
H45cm

写真・岡本寛治



夢の島に咲く花/ステンドグラス (1995)
H55cm



月の散華／友禅染め (2003)



「重々帝網」
／書 (2010)

帝網Ⅱインドラの網。帝釈天の宮殿の上には透明清澄な微細に輝く網がいちめんにはられており、その網の結び目ごとにかかる宝珠の、ひとつひとつの玉は鏡のようにすべてを映し出し、相照らし、多くの鏡に映った影が重々に織りなすという華嚴経の世界観をあらわしています。宮沢賢治は「インドラの網」という天の子供たちの童話を書いています。



アメ アカルダマ
天の明玉／珊瑚
天河石 (2007)



月光水／月長石
水晶 (2007)

蘭

魏

蕙



カー
山谷の川村チャンの鬼瓦
／燻し焼き (1992)



たきび／木：りんご (1979)



花びらゆりかご／木：樟 (2011)



せなかに咲く花／木：檜 (2013)



虫の声／創作絵本（絵・くぼたともえ）(2008)



オルゴールCD小さな命 歌／菅井千春
詞と曲／高橋れい子 (2011)



ロージーのおうち（ときがわホースケアガーデンの仲間達）
／フェルト人形 (2012)

「ひとつの眼」

私が初めて人の顔を木に彫ったのは、老いて痴呆症になり、寝たきりに移行していく中での祖母の顔でした。私は会社のバスケットボールチームに所属していましたが、繰り返した足のけがにより会社を辞め、たまたま無職だった私が介護をすることになりました。まだ痴呆症という言葉も、社会支援もない時代で、何も知らない22才の娘にとっては、ただ手探りで理屈の通用しない相手と格闘するしかありませんでした。そんな毎日が続いたある日、茶の間に座って一緒にお茶を飲んでほっとした時、庭中の緑の中に三本のアヤメと赤い花が一本咲いているのが目に入りました。ああきれいだなあと思ったのとまったく同時に、祖母は「あの花を切ってお如来さん(仏壇)にあげてくれ」と言いました。惚けてはいても、同じ時に同じ花を思う心…。そんなささやかなできごとではありましたが、何も思い通りにならない日々の中で、思いがけず私たちに訪れた静かな、花のあかりが心にともった時間でした。

そのころから、闘いだっただ介護は穏やかなものに変わっていききました。祖母は白内障のために片眼が大きくゆがみしわだらけで、若い私の目にはもはや醜い人になっていました。でもそのゆがんだ顔の中に開いている残されたひとつの眼が、つぶらな、深い湖のような、遙かなものを見るような輝きをもって私の目に映りました。それは情熱を傾けてきたことに痛みをともなって挫折した後の、私の心の虚ろにしみ入り、それからの人生を大きく変えることになりました。

関東大震災、祖父の病死、戦争という苦難をこえてきた祖母の人生にはくらべようもない、自業自得の傷心の孫に、彼女の魂は何を伝え継いでくれようとしたのか。生の終わりにその無垢なひとつの眼は何を見ていたのか、その瞳に宿っていたものは何なのか。22才のその時から58才の現在までの、様々な場所で人と出会い、互いの心の闇と光に触れ、あがきながら学び、多様な表現方法で人の姿を写し続けてきた長い旅は、その問いの答えを探そうとするものだったのかもしれないと、今になって思います。

16年ぶりの個展のお話をいただいたギャラリー「かぐや」の、人の営みを見守り続けてきた古い民家の空間の中で、ごいっしょに思いを巡らせていただけたら幸いです。

高橋れい子

略歴

1955 長野市生まれ
1977 木彫を始める
1979 長野東急 木彫人形個展
1980-83 入間市 KOBATAKE 彫刻工房
で彫刻を学ぶ
1982 二科展入選

1980～ 池袋西武、銀座松屋で木彫
人形個展
各所ギャラリーで、仮面、肖像彫刻、
鏡、ステンドグラス等の個展
1990～ 山谷労働者福祉会館、身体障
害者療護施設カーサ・ミナノ 壁面彫刻
1995 越生町工芸茶房一休 関係展
「黒山に相寄る精霊」

1999～ 都幾川^{もつけん}木建 建築設計助手
2003～ 岐会展 書展に参加 2年ごと
2004 ときがわ町ぽっぽの木
オルゴールのグループ展